



まいど！ざいむ局です！ ～ 起業家編 ～

関西元気企業

～業界ナンバーワンの技術で「奈良」から「世界」へ～

今回ご紹介する企業は、奈良県御所市に本社を置く生産用機械メーカーの株式会社FUKです。平成 15 年、大手電気機械メーカーに勤められていた社長が、そこで培った技術を駆使して先進的な製造工程を開発し、世界から注目を集めるようになった企業です。

世界から注目を集める技術とは、みなさんがお持ちのスマートフォンのタッチパネルに使われているものです。美しく精密に仕上げられたタッチパネルの中には、並々ならない苦勞と、先進的な技術が詰め込まれているのです。

リーマンショックやギリシャ危機など、何度も会社存続の危機に直面しながら、高い技術でその窮地を乗り越え、今後より一層の飛躍が期待される企業にまで育てあげられた、その秘訣と、これから起業しようとする方へのアドバイスを、同社社長でいらっしゃる植村光生氏にお伺いしました。

● 最初に、起業された経緯について教えてください。

～大手電気機械メーカーに就職するも、自分のやりたいことを為すために退職する～

大手電気機械メーカーでは液晶パネルの製造工程の開発(※)を担当していました。そこでは 100 以上の膨大な工程の開発を行っていたのですが、実際開発に自らが携わることができるのはせいぜい 2～3 程度でした。いちエンジニアとしては、「歯車になるのではなく、もっと製造工程の開発全体に携わりたい」、「エンジニアとして自立したい」という思いがどんどん強くなっていき、36 歳の頃、意を決して会社を辞めることにしたのです。当時、私は製造工程開発において中心的役割を担っていたことから、上司からも部下からも引き留められたのですが、上司は私の強い思いを感じ取って、「お前が言うんやったら、仕方ないな。」と、私の新たな挑戦に理解を示してもらいました。最後には自己都合で退職する私に送別会を開いてもらい、その時は大変うれしかったことを覚えています。

実は会社を辞めた直後は明確なビジョンを持っていた訳ではなかったのですが、大手で培った経験を活かして、技術コンサルタントの道はどうかと考えました。実際、複数の会社からお話をもらったのですが、進化のスピードが非常に速い液晶業界では、最先端の技術を身につけていなければ、すぐに置いて行かれるような厳しい世界なので、あくまで現場にこだわり、他の道を模索することに決めました。

ちょうどそのころ、液晶パネル製造で高い技術を持つ複数の技術者が、私と同じように新たな道を探しているとの情報を耳にしたのです。私が勤めていた会社も、当時液晶パネル製造技術が業界ナンバーワンで液晶テレビが世界標準にまでなっており、私自身もその部門で上位にいたため、自信がありました。私の頭の中にある液晶パネル製造工程の技術と、それを形づくる技術者達の技術があれば、自分の思いを形にでき、エンジニアとして

企業情報

名 称	株式会社 F U K
所 在 地	奈良県御所市室 1186-12
設 立	2003 年 (平成 15 年)
代表取締役	植村 光生
従 業 員	30 名 資 本 金 18 百万円
H P	http://www.fuk.co.jp/

自立できると思い、すぐにその技術者の方々に声をかけました。そこでようやく自分の進むべき道が定まり、液晶パネル業界に新しい風を吹きこもうと13名で起業することになったのです。

※液晶パネルの製造工程の開発…液晶の注入・封止や、ガラス基盤の貼合せなど液晶パネル製造には様々な製造工程があり、それぞれの工程において最適化された技術を開発すること。

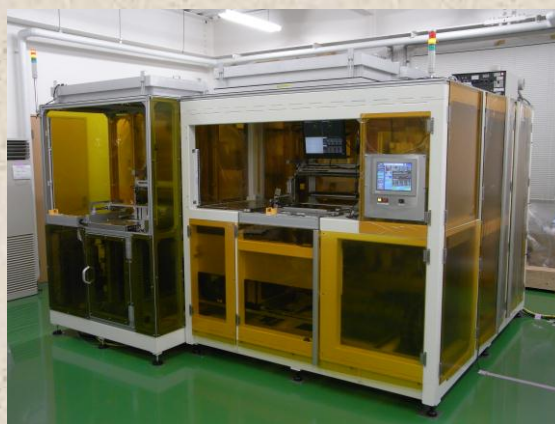
● 起業されてから様々な苦労があったのではないですか。

～世界を揺るがしたリーマンショック。FUKも大きく影響を受ける～

創業後しばらくは、中堅機械メーカーから液晶パネル製造装置の開発の仕事を請負っていました。自社ブランドで勝負することができず悔しい思いもありましたが、安定的に受注を得ることができました。しかしリーマンショック以降、全く仕事がなくなってしまったのです。当社が身を置く液晶業界は、景気に敏感に反応し、一旦動きが止まれば、半年は需要の回復が見込めないほど厳しい業界です。その企業からも全く仕事は回せないとのことで、当社は頼りを失ってしまい、自力で危機を乗り越える方策をとる必要に迫られました。

当社は何をすべきなのか、求められているものは何か、それは当社でできるものか。まずはニーズの発掘に奔走しました。そして、当社はスマートフォンに目を付け、タッチパネル事業に進出することを決めたのです。当時はスマートフォンの市場拡大期で、タッチパネル需要が旺盛でしたし、当社の液晶パネル製造技術を活かせると考えました。

開発には多額の資金を必要としましたが、当社にそのような余裕はなかったので、国の補助金の活用などで研究開発を進め、またアメリカの大手化学系企業の協力もあり、独自のパネル貼合せ技術『大気 BEND 方式』の開発に成功しました。『大気 BEND 方式』とは、従来は真空環境の下でしかできなかった液晶パネルとタッチセンサーの貼り合せを、協力企業が開発した両面テープを利用することにより通常の大気圧環境下で実現する世界初の先進的な技術です。新方式の開発により製造装置のダウンサイジングを可能とし、今まで液晶パネルとタッチセンサー間の気泡の発生などで高かった不良品の発生率を大幅に抑えるなど、製品に対する高い信頼性とコスト削減を実現することができました。



大気 BEND 方式を採用したガラス貼り合せ装置

● 『大気 BEND 方式』の開発によって多くの企業から声がかかったのではないですか？

～長い「種まき」からようやく「大きな実」を刈り取る時期へ～

実はそうでもなかったのです。先進的な技術をどのように活かすかが大事なのであって、ただ持っているだけでは何も起こらないのです。活かすにはマーケティングや営業力が必要となってくるのですが、我々はエンジニアが大半を占める技術者集団であり、そのような手法がよく分からず非常に苦勞しました。大手コンサルタント会社に営業面での工夫を学んだこともあります。

『大気 BEND 方式』の開発を始めとして技術には自信があったのですが、商談は増えていく一方、なかなか契約に結び付きませんでした。そのようなときにギリシャ危機が起きて液晶業界はまたしても止まり、当社も半年間全く受注がなくなりました。その影響の大きさから、一時は会社の身売りまで考えました。なすすべもなく絶望していたそのとき、台湾の大手企業から一本の連絡があったのです。それはタッチパネル製造装置の大型受注に関するものでした。その企業とはすでに当社製造装置を導入してもらおうなど設立当時からお付き合いがあり、当社の確かな

技術力やきめ細やかな質の高いアフターサービス等に高い評価をいただいて、「タッチパネル製造工程は全て FUK に任せる」と言ってもらえるほど当社技術を気に入ってもらっていたのです。この一本の連絡から何とか食いつくことができました。その後、『大気 BEND 方式』開発でつながりのあったアメリカの大手化学系企業も当社技術にほれ込んで複数のセットメーカー（液晶分野の関連会社）に当社製の製造装置を導入してくれることになり、当社製品が世界中に広まるきっかけとなったのです。

先進的な技術があってもかかわらず、なかなか売上が伸びなかった要因はいくつか考えられますが、一つは与信力がないことにあると考えています。当社は設立してから日も浅く、資本規模が大きいこともあり、業界の中では、まだまだ当社を認めてもらっていないと感じることもあります。もう一つは、当社のコピー製品が出回っていることです。コピーについては、進化の早い液晶業界では日常茶飯事ですから、特に目くらを立っていません。逆に当社は装置を見たいという要望があれば、常にお見せするオープンな姿勢でいます。たとえそれが同じような機能を持った装置であっても、同じ土俵に立てば当社は勝つことができる、それだけの高い技術を備えていると考えているからです。与信力がないことも、コピー製品が出回っていることも、我々は技術で乗り越え、打ち勝つことができると考えています。

このように幾度となく困難が立ちましたでしたが、今まで種まきしていた甲斐もあって、27 年度以降はようやくそれが実となり、刈り取ることができる時期になると考えています。開発してきた技術を活かし、今後市場規模の拡大を見込める、ガラス基板の洗浄やタッチセンサーとの貼り合せなど一連の液晶タッチパネル製造工程のライン化を顧客に提案し、新たな一歩を踏み出していきます。

● 今後の御社の取り組み・方針について教えてください。

～現状に満足せず世界中のあらゆる液晶媒体への展開を図る～

液晶業界は拡大し続けており、スマホ・タブレットだけでなく、今後はノートパソコンやテレビ、デジタルサイネージ（※）、その他様々な媒体にもタッチパネル搭載がスタンダードになっていくと考えています。我々はそういったニーズに全力で応えるために更なる技術の向上に努めたいと考えています。奈良でも、さらに地方と言われる御所市から発信した当社の技術が、日本だけでなく、世界中に認知され、リスペクトされるようになればと考えています。

※デジタルサイネージ…屋外看板や店頭などに設置された液晶ディスプレイなどによる映像表示装置。ネットワークに接続することにより状況に応じた情報を提供することができる。



植村 光生 代表取締役社長

● それでは最後に、これから起業しようと考えている方へアドバイスをお願いします。

私は、自分の人生は自分の足で歩いていきたいとずっと考えていました。これまで自分なりに一生懸命やってこれたと思っています。しかし、起業してから現在までの道のりを振り返ったときに、私の周りには常に支えてくれた人たちがいました。こうした方々との「つながり」を常に大切にしていたのです。「つながり」とは、当社の顧客だけでなく、外注業者、材料メーカーなど当社と関わりのある全ての方々のことです。この「つながり」を大切にしてきたからこそ今の当社の姿があると思っていますし、これから起業しようと考えている方にも、あらゆる場面で得た「つながり」を大切にしてほしいと思います。将来、必ず何らかの形で役に立つ機会が来ると思います。

<取材後記>

取材した際に、業界ナンバーワンの技術を持っているという自信に満ち溢れた植村社長のお姿を見て、私は感銘を受けました。植村社長は同社だけでなく、業界をも動かすことのできる大きな原動力になると感じました。

また、これから起業しようと考えている方に、「つながり」を大切にすることを挙げておられますが、みなさんにとっても大切なことではないでしょうか。私個人も今の自分があるのは、両親や友人、職場の上司・同僚など多くの方々があつてのことだと思います。これからも周りの方々に感謝しつつ、自分が成長することで恩返ししていきたいと思ひます。

(奈良財務事務所財務課 竹平健太)

掲載している情報は、平成26年12月時点のものです。

掲載している写真は、同社よりご提供いただいたものです。